

あってはならない採点ミス — 2012 ロンドン五輪シンクロナイズドスイミング 競技におけるレフリー判断は正しかったのか? —

本間三和子¹⁾

1. はじめに

2012年8月5-10日、ロンドンオリンピック・アクアティックセンターを舞台に、第30回オリンピック競技大会(2012/ロンドン)シンクロナイズドスイミング競技が実施された。シンクロナイズドスイミング(以下シンクロと略す)は1984年ロサンゼルス大会より正式採用され、ロンドン大会は8回目のオリンピックとなる。今大会、国際水泳連盟(FINA)役員としてシンクロ競技のレフリー(審判長)を務める機会を得たので、レフリーの立場からシンクロ競技の報告をさせていただく。



写真1 2012 ロンドン五輪アクアティックセンター正面入口

2. レフリーの役割

シンクロ競技では、レフリーは一競技会に一

人が任命される。レフリーは競技運営上のすべての責任を負い、ルールに基づいて最終判断を下す。ルールブックには、ルールに記載されていない事項はレフリーが裁定を下す、という一項があるため、競技場内で起こった全ての出来事についてレフリーが裁定権限を持つ。また、ジャッジ(審判員)をはじめとするすべての競技役員を統括、指導し、その任命責任と競技結果の最終責任を有する。つまり、減点や失格の最終判断を行い、ジャッジや役員の交代を言い渡すのもレフリーの役目である。したがって、各国からのプロテスト(抗議)はレフリーに宛てて提出される。

3. プロテスト

FINA がもっとも嫌うのは、選手・役員の違反行為とプロテストである。これらのマイナス材料は、水泳競技の尊厳を著しく傷つけるだけでなく、メディアからの攻撃材料となりスポンサー等からの協力を妨げ、オリンピック種目としての存続に黄信号を点すことにつながるからである。

とはいえ、世界選手権等の大規模国際大会において、毎回、水泳5競技(競泳、飛込、水球、シンクロ、オープンウォーター)全体で10-20件程度のプロテストが出されることが常である。シンクロ競技においては、水泳競技全体に占める件数は極めて少ないが、採点や減点に

1) 筑波大学体育系

対するプロテストが1-2件出されることがある。たいていのプロテストは、提出した際にレフリーによって説明がなされ、取り下げられる。レフリーは、まずはプロテストを出させないように努めなければならないのである。しかし、納得してもらえない場合には、プロテストを受理し、上訴審判（Jury）に上げる。

シンクロで最近記憶に残っているプロテストは、2005年モントリオール世界選手権において出された、減点の不服によるカナダチームからのプロテストであった。チーム演技中に選手がプール底に足を着いたことを水中映像で確認したレフリーが減点を下したのだ。その際のレフリーは韓国人。レフリーがカナダチームに映像を見せて説明したが、開催国カナダは納得せず上訴した。足は着いたが偶然であって故意ではない、との主張であった。私と同室だった韓国人レフリーは、カナダに詰め寄られ、上訴に至るまでの数日間、眠れないほど悩んでいた。だが、窮地に追い込まれたかに見えたレフリーは潔かった。大勢の上訴審判とカナダチームの前で、映像を見せ、ロジカルに減点の正当性を説明したのだ。結局、上訴審判はレフリーの裁定を支持し、カナダのプロテストはリジェクトされた。

レフリーはプロテストを怖がっているのは減点や失格の判定を下せない。公平に、安全に、競技を運営するためには、どのような圧力にも屈せず、勇気と自信を持って『Go!』『No!』を告げなければならない。その代わりに、自分で下した判断に関しては、責任を持たねばならないのだ。

4. オリンピックにおける競技運営

オリンピックは競技種目数と出場国数が限られているため、競技日程はタイトではない。競技はデュエットから開始される。初日(8月5日)は、デュエット・テクニカルルーティン競技(24組出場)、第二日目(8月6日)はデュエット・

フリールーティン予選競技(24組出場)、そして第三日目(8月7日)は上位12ヶ国がデュエット・フリールーティン決勝競技に進む。第四日目(8月8日)は競技を実施しない。第五日目(8月9日)はチーム・テクニカルルーティン競技(8組出場)、そして8月10日最終日はチーム・フリールーティン決勝競技(8組出場)である。チームには8ヶ国しか出場しないため、試合時間は1時間前後と短い。それゆえ、競技運営は、オリンピックという大それた演出を除けば、競技種目数やエントリー数の多い世界選手権などに比べると負担は軽い。しかし、オリンピックである。テレビが絡んでいるため秒刻みのスケジュールでの競技進行が求められる。スポンサーの絡みもあって支給された服装や持ち物のイベントごとの規則が極めて厳しい。スカーフ一枚でも着用を忘れようものなら大変なことである。競技中に勝手にブレザーを脱いでもいけない。なぜなら、VIKによるメーカーのロゴの露出は重要な契約だからだ。VIK(Value in Kind)とはスポンサーが契約の一部に含む現金以外の物的供与のことをいう。たとえば、チームウェアや飲料の供給などがある。

とりわけ、オープニングや表彰式などのセレモニーは、多くの人に関わるため、繰り返しリハーサルが行われる。競技場への出入りのタイミング、歩くスピード、立ち位置、移動の動線



写真2 ロンドン大会における競技役員の正装(白いバッグは私物)

など、数多くの細かい指示に従って動かなければならないのである。

5. まさかオリンピックで、..

私も他のレフリーが思うのと同様に、期間中、面倒なインシデントが生じることなく無事に終了することを願って、大会に臨んだ。ここはオリンピック。選手もコーチも万全の準備で挑んでいるはず。抜かりがあるはずはない。フェアプレーで戦うはずである。また、採点を行うジャッジは、経験豊かなFINA公認A級ジャッジから選りすぐられた15名の精鋭ジャッジだ。まさか、採点ミスや人為ミスなど起こるはずがない、と、信じて疑わなかった。

しかし、'オリンピックには魔物が棲んでいる'とはよく言ったものだ。最終日、あつてはならないことが起こってしまった。その瞬間、私は何が起こったのか理解できないでいた。数十秒後、すべてを理解したとき、私は凍り付いた。心臓が高鳴り、外に飛び出しそうなほどバクバクと鼓動しているのが自分でも手に取るように感じた。

初日、2日目、3日目と、デュエットにおいては競技運営上、大きな混乱もなく順調に進んだ。この3日間でもっとも大きな問題といえば、TVによる進行時間の制限である。ひと組目から次の組までの競技時間は7分間と決められており、それより短すぎても長すぎても困るのだ。演技は4分で終了するが、プールの真ん中あたりで泳ぎ終えてから、プールサイドへ上がってくるまでに時間がかかりすぎるため、TVサイドから毎回クレームがついた。オーロラビジョンに演技のリプレイが映されるため、選手はプールサイドへ泳いで戻る際についつい振り返って自分の演技を見てしまうのだ。それによって計算以上の時間がかかりすぎてしまい、TVがdelayした。毎日の監督会議において、演技終了後は速やかにプールサイドへ泳ぎ着く

ように注意を促した。それでも、チームは8名が泳いで戻るため、TVサイドは時間が延びることをもっとも気にしていた。しかし、チームの協力も得られ、TVのdelay問題を解決することができ、最終日(8月10日)を迎えた。

6. 何が起こったのか?!

最終日、チームフリー決勝。前半4組が泳ぎ終え、あと4組ですべての競技が終了するとうときに、理解不能な場面が訪れた。メダル獲得が当然と思われたスペインの演技終了直後である。私の隣にいたFINAシンクロ委員会の名誉秘書(Honorary Secretary)が私のところへ駆け寄り来て、「ミワコ、テクニカルメリット(TM)の第一ジャッジがスリップを戻してほしい、と言っているわよ。」と告げた。スリップとは、ジャッジ自身が採点入力装置に採点を入力すると同時に、自分の採点を記録してチーフレコーダー(もしくはレフリー)に提出する小片の紙のことである。チーフレコーダーは、電光表示板に競技結果を転送する前に、モニターで入力点とスリップの点が同じであるかどうかをチェックする。なぜなら、時おり、入力ミスが起こるからである。入力された点数とスリップに記載された点数が異なる場合、後者が優先される。

私は、すでに入力も終えているはずなのになぜスリップが必要なのだろう、といぶかしく思ったが、自分の入力点とスリップに記載した点が正しいかどうか再確認したいのだろうと推察し、ただちに第一ジャッジにスリップを手渡した。それは、すでにチーフレコーダーがモニターで入力点とスリップの点数が同じであることを確認した後だった。

すると、彼女は、そのスリップに記録した3つの点数「7.7, 7.6, 7.8」を瞬時に「9.7, 9.6, 9.8」と書き直した。私は「No, you can not change it!」と叫び、スリップを取り戻した。そして、チーフレコーダーの元に戻り、モニターを確認

したときに、すべての状況を理解した。テクニカルメリットパネルの第一ジャッジは大変な採点ミスをおかしてしまったのだ。

スペインと中国がコンマの争いで銀メダルと銅メダルをかけて戦っている。先に泳いだスペインチームは、技術的に不十分な部分も見られたが、9点後半のレベルであることは間違いなかった。そんな中で第一ジャッジはテクニカルメリットの3つの採点を、7点台と記入し、さらに採点入力装置に入力をしていた。私にとっては、記入ミスでもなく、入力ミスでもなかった。スリップも入力装置の点数もまったく同じ7点台であったのだから。

だが、彼女にとっては、入力もミスで、スリップへの記入もミスだったようだ。彼女に何が起こったのだろうか。別の弱小チームと見間違えたのだろうか。だが、言い訳は通用しない。8チームしか出場していないのである。演技内容は過去に何度も見たことのあるスペインチームのものである。スペインは2011年から同じプログラムを泳いでいるので、今日初めて泳いだプログラムではなく、見間違うはずはない。7点台のチームはすでに演技を終えており、競技の後半は9点後半のチームしか出場しない。出場順は、前日の結果をもとにトップ国が後半に出場するように抽選しているのだから。

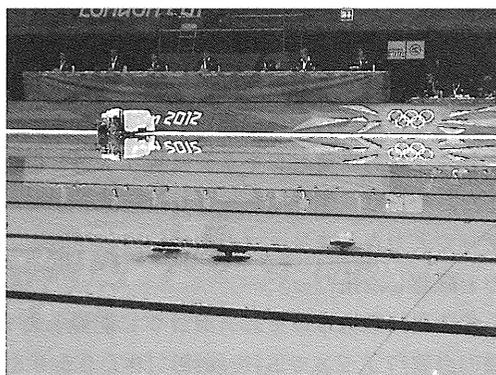


写真3 競技開始前のジャッジ席
ジャッジは7名ずつ両サイドに着席して採点を行う

7. 迷い

その場にいたFINAシンクロ委員会コミッションメンバー（執行部）に状況を説明し、第一ジャッジの要望どおりに採点を9点台に修正すべきかどうか意見を問うたところ、全員から「あなたが判断しなさい。」と瞬時に戻された。コミッションから適切なアドバイスをもらえることを期待していた自分が甘かった。

私は迷った。なぜなら、スペインチームの選手の立場になって考えたとき、自分たちの演技が正しく採点されなかったことは屈辱である。日々、オリンピックのために練習してきたアスリートに対して公平でないと感じた。誰が見てもスペインチームの演技は7点台のレベルではなかった。だとしたら、第一ジャッジの人為ミスを認め、9点台に修正すべきではなからうか。ジャッジだって人間だ。採点後であっても間違いがあったと申告されたのだから修正すべきではないか。私が選手だったら、どんなにショックだろう。その考えが頭をよぎった。

その一方で、第一ジャッジが入力とスリップのどちらにも7点台を入れたのは事実である。入力装置には7点台を入力していても、スリップが9点台であれば、レフリーの権限で修正ができる。だが、スリップにも7点台を記入していたことは紛れもない事実であった。だったら、ルールに則って、7点台を正式点数とすべきである。この両方の考えが行ったり来たりして、どうすべきか迷った。

私はとっさにチーフレコーダーに確認した。「スー（チーフレコーダーの呼称）、第一ジャッジの点数を9点台に入力し直した場合と7点台のままにした場合とで順位の変更が生じますか?」と。シンクロ競技では1つのパネルに7名のジャッジを置き、最高点と最低点をカットした5名の平均点を使用する。チーフレコーダーは、即座に「ミワコ、順位変動はありません。」と返事した。チーフレコーダーは優秀だった。私に聞かれることを予測して、すでに試算

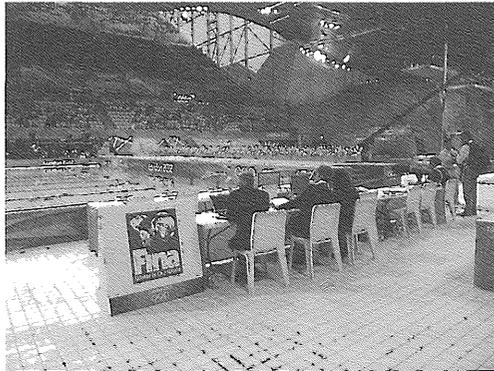


写真4 プールサイド競技本部
試合開始前のため役員は着席していない。

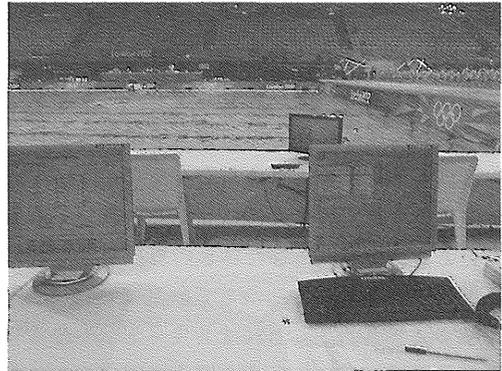


写真5 チーフレコーダーがジャッジの採点入力と集計結果の確認を行うモニター
試合開始前のため役員は着席していない。



Aquatics Centre
Centre aquatique

FRI 10 AUG 2012
15:00

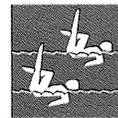
Synchronised Swimming
Natation synchronisée

Teams

Epreuve par équipe

Free Routine Final

Programme libre finale



Detailed Results

Résultats détaillés

Referee	HOMMA Miwako	TSSC
Asst. Referee	GUT la RAGIONE Livia	TSSC

Rank	NOC	Name		Judges							Score	Pen	Free Routine	
				1	2	3	4	5	6	7			Points	Points Behind
1	RUS - Russia	DAVYDOVA Anastasia	TM								49.470		98.930	
		GROMOVA Maria	Ex	9.9	9.9	9.9	9.8	9.9	10	9.9	39.600			
		ISHCHENKO Natalia	Sy	9.8	9.9	9.9	9.8	10	9.9	9.9	29.640			
		KHASYANOVA Elvira	Df	9.9	10	9.9	9.9	9.9	9.9	9.9	29.700			
		KOROBOVA Daria	AI								49.460			
		PATSKEVICH Alexandra	Ch	9.8	9.9	9.9	9.8	9.9	9.9	9.9	49.400			
		ROMASHINA Svetlana	MI	9.9	9.9	9.9	9.7	10	9.9	10	29.760			
		TIMANINA Anzhelika	MP	9.9	9.9	9.8	9.7	9.9	9.9	10	19.760			
		2	CHN - China	CHANG Si	TM									
CHEN Xiaojun	Ex			9.8	9.7	9.8	9.7	9.7	9.7	9.7	38.880			
HUANG Xuechen	Sy			9.7	9.7	9.7	9.7	9.9	9.8	9.8	29.220			
JIANG Tingling	Df			9.7	9.6	9.7	9.7	9.7	9.7	9.8	29.100			
JIANG Wenwen	AI										48.410			
LIU Ou	Ch			9.7	9.7	9.6	9.3	9.7	9.8	9.8	48.500			
LUO Xi	MI			9.6	9.6	9.6	9.4	9.6	9.8	9.9	28.920			
WU Yiyen	MP			9.7	9.6	9.7	9.4	9.8	9.7	9.8	19.400			
3	ESP - Spain			BASIANA CANELLAS Clara	TM								48.320	
		CABELLO RODILLA Alba	Ex	7.7	9.7	9.7	9.5	9.8	9.7	9.6	38.560			
		CARBONELL BALLESTERO	Sy	7.6	9.6	9.7	9.6	9.9	9.6	9.7	28.920			
		CRESPI JAUME Margalida	Df	7.8	9.8	9.8	9.7	9.8	9.7	9.6	29.160			
		FUENTES FACHE Andrea	AI								48.600			
		HENRIQUEZ TORRES Thais	Ch	9.6	9.8	9.7	9.7	9.6	9.8	9.7	48.500			
		KLAMBURG ROQUE Paula	MI	9.7	9.8	9.6	9.9	9.7	9.9	9.8	29.340			
MONTRUCCHIO BEAUS	MP	9.6	9.7	9.6	9.6	9.7	9.8	9.8	19.360					

図1 ロンドン五輪シンクロ競技チーム・フリールーティン決勝の得点結果
(囲みがテクニカルメリット第一ジャッジの採点)

を終えていたのだ。その返答を聞いたとき、私は決心した。「OK, これでスペインからプロテストが来ても退けられる。」と確信し、第一ジャッジの採点を7点台のままとすることを最

終判断した。私がこの最終判断を下すまでに数分の時間が必要であったことはいうまでもない。

8. 結末

競技終了後、レフリーとしてそのジャッジを呼び出し、注意を与えた。彼女は最後まで自分の採点ミス認めようとしなかった。「ミワコ、私のメモを見て。ここには9点台と書いてあるでしょう。なぜ、あなたは私の点数を9点台に修正してくれなかったのですか。」と逆ギレし、大声で泣き喚いた。あれはスリップへの書き写しのミスであって、自分の採点は間違っていなかったと彼女の主張は続いたが、そのうち、自分が憐れで情けなくなってきたようで、その場に泣き崩れた。

私は声にして言わなかったが、「あなたは、しばらく世界選手権やオリンピックでFINA指名ジャッジとして選考されることは難しいでしょう。」と心の中でつぶやいた。

スペインチームは中国に破れて銅メダルに終わったが、幸いにもスペインチームからプロテ

ストは出されなかった。

9. おわりに

これまで、世界選手権、世界ジュニア選手権、アジア大会、アジア選手権等の国際大会において複数回レフリーを務めてきたが、オリンピックは初めての経験であった。私のシンクロ人生の中で、オリンピックレフリーを務めることは、おそらく今回が最初で最後の機会だと思う。何事も起きなければいい、と願っていたが、やはりオリンピックには魔物が潜んでいた。見えない力が、尋常でない心理状況を引き起こすのかもしれない。

後に、このときのことを関係者に説明するたびに、全員が私のレフリーとしての最終判断を支持してくれた。だが、不思議なものである。私は今でも「Was my decision correct?」と自分に問うことがある。